

教科名		英語	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		発行者名	東京書籍
			開隆堂出版
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・文法事項の練習問題や内容理解のための設問が、順序立てて示されている。また、コミュニケーションに主眼を置いた既習文法を整理するページがある。第1学年には実際に並べて学習できる「語順カード」を付けるなど、単語や本文の学習に関し、文法の解説等も二次元コードで確認できる工夫がされている。	・文法項目は、第1学年において、「be動詞」から「一般動詞」へ進む構成としたり、第2学年の「to不定詞」について、名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法の「3用法」を学習する時期を近接させるなどの配慮がされ、扱いやすい。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・各章の最後に章の内容と関連したActivityがある。この章末の表現活動に向けて、各パートでの質問に答え、情報整理、ペアワークを経て原稿を書くなど、1つの章がつながりをもって段階的に構成されている。 ・発表活動に向けたStage Activityが学期に1回程度、設定されており、動画のビデオレターなどで、具体的に目的・場面等が示され、それに応じて進める形式になっている。	・各学期の最後にプロジェクト型の授業が組まれており、「主体的・対話的で深い学び」に向けた配慮がされている。 ・グループで話し合ったり、質問のやり取りを基に振り返ることができるようにしたり、習得した知識等を用いて発表したり、原稿を考えたりする場面設定を「our project」で設定したりするなど、4技能5領域を統合的に活用してコミュニケーションできる喜びを実感できるよう工夫されている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・第1学年での身近な話題から第2学年での多文化理解、第3学年での多様な考え方に触れる教材まで多岐にわたっており、オンラインツアー、エシカル消費、ご当地グルメなど、近年関心を集めている話題を取り上げたものがある。 ・様々な文化的背景をもっている登場人物を設定したり、社会生活に関わるグラフ、広告などを読み取ったり、作成したりする活動を取り入れるなど、資料を工夫している。	・キャラクターの言葉が紹介されているなど、生徒にとって興味をもちやすい資料が提供されている。 ・手話を共通言語とした飲食店の取組を題材にした内容も見られ、時代に即応した内容となっている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	・「ユニバーサルデザイン」「動物保護」「原爆」など、各学年で特に国際協力・多文化理解に関する資料を使用している。 ・第2学年ではSDGsの目標を英語で読み取り、自分が取り組みたいことを伝える学習を設定している。	・目次にSDGsのマークが付されている。特に第3学年では、ほとんどすべてのプログラムでSDGsに触れる中身となっている。その内容は「フェアトレード(チョコレート)」や「ごみ問題(海洋ごみ)」など、多岐にわたる。 ・「SDGs」を取り上げるプロジェクト型の発展教材も設定している。
B 使用上の便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・タブレット等で生徒が利用できるデジタルコンテンツには、語句や本文の音声の他に、導入部のアニメ、キーセンテンスの解説、クイズなど動画を用いることにより、興味・関心を喚起するものとなっている。 ・各パートの質問等が具体的で段階的であり、巻末にCAN-DOリストを設けたりして、生徒が主体的に学習を進められるような工夫をしている。	・既習事項を生かし、「魅力的なラーメンのCM作り」「ボランティア活動で日本に住む外国人に向けたおすすめスポットを紹介するチラシ作り」など、具体的な場面を設定して、構想を練ったり、グループで話し合ったりできるよう、主体的に学習を進められる工夫がされている。 ・各ページに発音の解説もあり、生徒の学びに役立つ配慮も随所に見られる。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	・第2学年のUnit5の最後の「Learning Social Studies in English」では、SDGsの目標を英語を読み取り、自分が取り組みたいことを伝える場面を設定したり、第3学年のUnit1では、生徒の興味・関心の高い日本のポップカルチャーを取り上げたりするなどの工夫がされている。	・SDGsに関する資料が多く用いられるとともに、4技能を文法項目から順序立て、積み上げ式で学んでいくことができるよう、工夫されている。

教科名		英語	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		三省堂	教育出版
A 内容について	(1) 基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・1つ1つの文法の導入順序がよく考えられていて、生徒にとって分かりやすい。また、各単元ともExercise→Listen & Readの流れで構成されており、音声から文字、練習活動からコミュニケーション活動へと基礎・基本の定着やコミュニケーション能力の育成を重視し、覚える、暗記することが可能な構成となっている。	・第1学年の最初が小学校の振り返り→be動詞と一般動詞(疑問文・否定文含む)→can→疑問詞、isの順にしたり、小学校既習単語は新出単語と別枠で掲載するなど、基礎・基本の確実な定着に関する工夫が見られる。
	(2) 課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・場面設定が日常の身近なところに置かれていて、基本的な日常会話の育成につながるよう工夫されている。 ・各単元に「Small talk」があり、スピーチやディスカッションをする際のポイントなどが分かりやすくなっている。	・「Lesson」の展開が本文→基本文→パターンプラクティス→リスニング→ライティング活動と統一されるとともに、レッスンの終わりには、文法ポイントを復習するTaskを設けている。 ・各学期の終わりの時期に、Projectが用意されている。参考資料や例文の提示がある。教科書がワークシート形式になっていて、small stepを経て課題に取り組めるようになっている。
	(3) 資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・題材として、アーバンスポーツ、車いすバスケット、カーリング、職場体験、オンラインショッピング、修学旅行、映画、漫画やアニメなど、生徒が興味・関心をもちやすい資料を多く扱っている。 ・職場体験や修学旅行など、英語科以外の学校の他の教育活動にも関わる資料を用いる工夫がされている。	・職場体験、登場人物の将来の夢、SDGs達成のために自分たちができることなどを資料として用いるなど、英語科以外の教育活動との関連も図ることができるような資料の工夫が見られる。 ・SDGsに関連し、メジャーリーガーとなった聴覚障害のある野球選手の実話などを資料として取り扱っている。
	(4) 持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点を取り入れられているか。	・第1学年で防災、第2学年で水(資源)問題、第3学年で平等、公平、環境問題を取り上げている。 ・他教科に関する題材や歌なども取り入れ、国際理解や文化など、ESDの考え方に基づく学習に発展できるような工夫が見られる。	・環境(第1学年)や、温暖化、手話、ユニバーサルデザイン(第2学年)、男女平等や防災(第3学年)等、各学年において、学習する内容とSDGsの17の目標との関連を「マーク」で明示している。 ・現代社会の問題を自らの課題と考えられるように、SDGsに関わる題材を多く取り入れながら、主体的に考えるよう工夫されている。
B 使用上の便宜について	(1) 生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・見開きの左側のページに文法事項があり、右側のページに本文がある構成とし、生徒が文法等の既習事項を確認しながら学習を進められるよう構成されている。 ・各Unitで5領域の活動が含まれるとともに、必要に応じて二次元コードで確認できるような工夫がされている。	・二次元コードで本文音声と語彙の学習用ワークシートにアクセスできるよう教科書に示したり、例文やword bankを活用して表現活動に取り組めるよう工夫されている。 ・「単元の扉」で目標が示すとともに、日常生活や社会的なテーマについて主体的に学習を進められるよう工夫されている。
	(2) 多摩市という地域の実態に即しているか。	・海外との交流を推進する観点から、異文化を理解し、尊重する題材が数多くあり、様々な視点からの授業展開が考えられるとともに、日本を知ること、日本の素晴らしい文化を若い世代へ継承することについて、各学年で取り上げている。	・コミュニケーション能力の育成のため、聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くことをそれぞれ達成できるように配列されている。

教科名		英語	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		発行者名	
		光村図書出版	新興出版社啓林館
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・各学年ともいくつかのUnitの後に帯教材として話したり語彙を確認したりするページを設け、基礎・基本の確実な定着への工夫がなされているとともに、小学校での学習を確認する教材をUnit1の前に配置したり、巻末に「英語のしくみ」として、当該学年で取り扱う基本事項をまとめた教材を配置したりしている。	・第1学年において、小学校の外国語科の学習内容との関連を示した「小中接続ページ」を設けるとともに、「英和辞典の使い方」や単元ごと毎に進出文法の説明ページ、前年度までに学習した基本文の掲載ページを設けるなど、基礎・基本の定着に向けた工夫がされている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・各学年とも、いくつかのUnitの後に、技能統合型の活動を配置したり、自己表現の幅を増やすための、即興でのやり取りのトピック集や語彙集を掲載するなど、思考力・判断力・表現力を育成するために配慮がされている。 ・全学年とも、巻末で思考ツールの活用例を掲載している。	・ActivityのListeningにおいては、絵を選ぶだけでなく、答えを文章で書いて表現するよう工夫がされている。 ・余暇の過ごし方、感想や気持ちの表現、学校や教室のルール、日本文化、建物・名所、職業、食べ物・飲み物、植物・生き物、性格などの「word box」を設け、自己表現を容易にできるような工夫がされている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・全学年を通して1つの物語を構成しており、中学生が登場人物となり成長していくストーリーが展開されるため、学年進行と登場人物の成長を重ねながら学ぶことができる工夫がされている。 ・AI、ロボット、著名なオリンピック、絵文字などに関する教材を配置しており、時代に即した題材を取り上げている。	・第2学年及び第3学年においては、自然、環境(気候変動、絶滅動物)、平和、世界等のテーマを扱っている。 ・教科書には多くの人種・民族を登場させたり、女性は赤色・男性は青色といった固定観念で性の区別をしない等、ジェンダー等への配慮をして資料を選定している。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	・野生動物の保護、平和学習、防災、ボランティア活動、日本の伝統文化などを主なテーマとした教材として配置している。 ・平等、世界等のテーマを扱った教材など、ESDの視点が取り入れられた教材を掲載している。	・第2学年・第3学年において、ESDの視点が取り入れられた単元のテーマで構成されている。 ・「Think&Speak/Write」⇒「Project」の流れで教科書が構成され、実践に向けた考えを表現できるよう、工夫されている。
B 使用上の 便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・全学年の巻頭及び巻末に当該学年の「英語の学び方」がまとめられているとともに、巻末に「can-do list」が掲載されており、自身の達成度を確認することができるよう工夫されている。 ・巻末に基本文のまとめとして、当該学年のターゲットセンテンスを一覧にまとめている。	・「target sentence」を設けることで、それぞれのUnitで学習した内容が分かりやすく書かれている。 ・各学年とも、「Unit のとびら」には、題材に関する情報を掲載して音声や写真・イラストなどで確認できるようにしたり、巻末には4技能5領域に関する「can-do list」が掲載されている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	・技能統合型の活動につなげていく中で、バランスよく4技能を身に付けるための教材が配置されている上で、アウトプットを意識した活動や、生徒が主体的に表現活動を行うための教材が多く使用されている。	・第1学年は身近なテーマ、第2学年以降は社会や世界に目を向けたテーマが多く設定されており、持続可能な社会の実現を目指したESDの取組と関連させながら英語科の学習を進めることができる。